

相国寺

【お茶・アート/東陣】

相国寺の広大な敷地には、多くの仏堂などの建物のほか、承天閣美術館や神社、池などがあり、方丈の側には本寺院の宗派である臨済宗の教えを反映したふたつの庭があります。

相国寺は、室町幕府第3代将軍の足利義満（1358～1408年）の要請により、1392年に創設されました。義満は習慣的に座禅を行っており、禅文化の中心地となる大寺院を建てることで禅の主義を広めたいと考えていました。相国寺は、将軍邸宅の隣に建てられました。

寺院の仏堂の数々は、何世紀にもわたって火事や戦争により破壊されてきました。敷地内に現存する最古の建物は、1605年に建てられ、現在は相国寺の本尊を祀った本堂として使用されている法堂（または達磨堂）です。その本尊は、仏教の開祖である釈迦牟尼です。

法堂の天井に描かれている龍の絵は、建物と仏教自体を保護する存在です。龍の視線は、訪問者が法堂内のどこに行っても追って来ると言われています。この天井画は、春と秋の特別参拝期間に見ることができます。